

旧中筋家住宅の概要

旧中筋家住宅は、敷地の東側が熊野古道に面しており、江戸時代末期の和佐組大庄屋にふさわしい屋敷構えを残しています。嘉永5年(1852)建築の主屋は、三階の望山楼、二十畳敷きの大広間や広い接客空間などが特徴で、紀ノ川流域随一の大規模民家です。

旧中筋家住宅は、主屋のほか表門・長屋蔵・北蔵・内蔵・御成門の付属建物が、昭和49年(1974)に国の重要文化財に指定されました。

旧中筋家住宅は、戦後楯本重一氏の所有となり維持管理されてきましたが、その後、和歌山市が管理団体となって、平成12年(2000)から約10年間にわたって保存修理事業を行ない、平成22年(2010)8月から一般公開しています。

中筋家の歴史

中筋家は、天正13年(1585)の羽柴秀吉による根来攻めを逃れ、根来からこの地に移ってきた文貞坊に始まるとされています。貞享4年(1687)4代良政が禰宜村の庄屋となり、寛延3年(1750)5代良重が和佐組の大庄屋となってから明治初年まで、6代にわたって大庄屋を務めました。

現在の主屋を建てたのは8代良秘(1781~1857)で、彼は紀州藩のお抱え絵師野際白雪(1773~1849)に絵を学び、芸術・文化に造詣の深い人でした。そして、10代良恭のときに現在の屋敷構えが整いました。

(旧中筋家住宅唐花立涌文様)

初代	文貞坊	
2代	孫太郎	(寛永14年1637没)
3代	太郎太夫	(寛文12年1672没)
4代	良政	(正徳2年1712没) ・貞享4年(1687) 庄屋
5代 初代	良重	(明和8年1771没) ・寛延3年(1750) 大庄屋
6代 2代	良久	(明和6年1769没)
7代 3代	良永	(寛政10年1798没)
8代 4代	良秘	(安政4年1857没) (東川(画家))
9代 5代	秘定	(明治元年1868没) (東嶽(儒者))
10代 6代	良恭	(明治39年1906没)

施設の利用案内

開場時間：午前9時から午後4時30分まで

ただし、入場は午後4時まで

公開日：3月から11月までの間の土曜日、日曜日、祝日

※通年、5人以上の団体から1ヶ月前までの申請により公開。

交通：JR和歌山線千旦駅から徒歩約20分、

布施屋駅から熊野古道に沿って徒歩約30分。

駐車場(無料)：旧中筋家住宅から南へ約300m。

車10台、観光バス2台駐車可。

観覧料：一般100円(高校生以下は無料)

団体 80円(団体は20人以上)



お問い合わせ先

旧中筋家住宅

〒649-6324 和歌山市禰宜148番地

TEL・FAX：073-465-3040

和歌山市 文化振興課

〒640-8511 和歌山市七番丁23番地

TEL：073-435-1194 FAX：073-435-1294

e-mail：bunkashinko@city.wakayama.lg.jp

旧中筋家住宅ホームページ：

<http://wakayamacity-bunkazai.jp/nakasujike>

国指定重要文化財

旧中筋家住宅

Former Nakasuji Residence



和歌山市

WAKAYAMA CITY



北蔵

北蔵

北蔵は、屋敷地の北西角に建つ蔵で、米蔵として使用されていました。屋敷地を西側に拡張した江戸時代末期の建築と考えられています。



内蔵

内蔵 (非公開)

内蔵は、家財を収納した蔵で、主屋とは大広間の西側でつながっています。明治19年(1886)に建築されました。



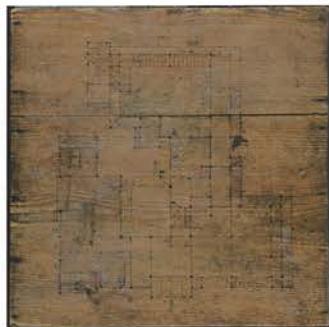
長屋蔵

長屋蔵

長屋蔵は、文政13年(1830)に建てられ、嘉永5年(1852)頃に規模が拡大された、南北約30mの細長い蔵です。米蔵、農具蔵などに使われていました。

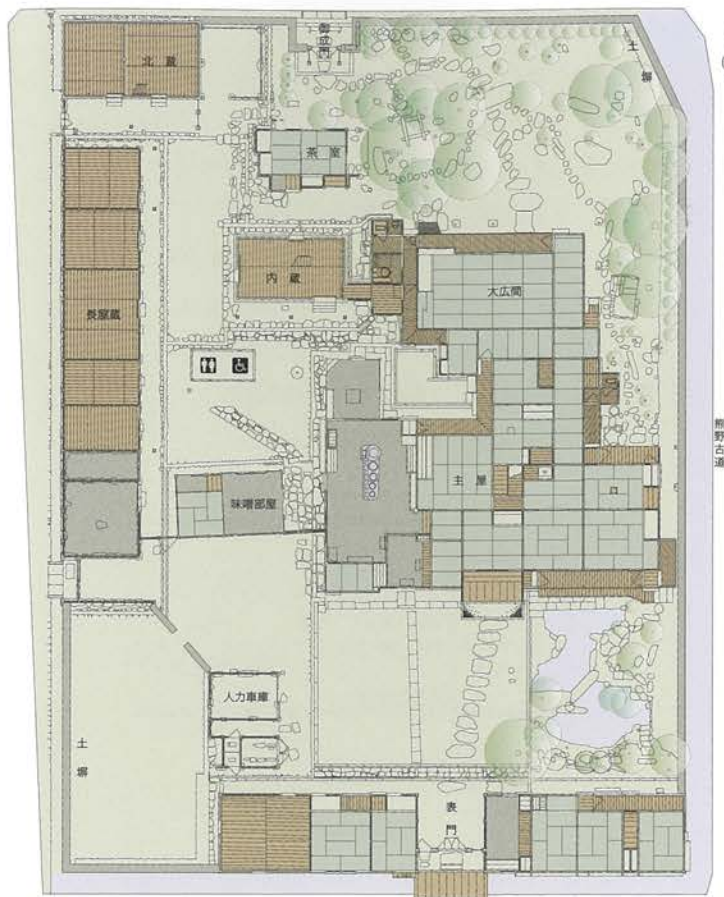
板絵図 (重要文化財)

杉板に描かれた旧中筋家住宅主屋の平面図。この板絵図は、建築当初の設計図面と考えられています。主屋は、鬼瓦のへら書きから、嘉永5年(1852)の建築とわかりました。



板絵図

旧中筋家住宅の建築



旧中筋家住宅平面図

旧中筋家住宅は、屋敷地が南北約57m・東西約40m、敷地面積が約2,200㎡あり、その外周は土塀で囲まれています。屋敷地の東側と南側には堀のような水路がめぐっており、東側は熊野古道に面しています。

南側の水路にかかる石橋を渡ると表門があり、門をくぐると正面に主屋がそびえています。屋敷地の北西には内蔵、北西隅には北蔵、西側には長屋蔵が建っています。主屋の南と北には庭園が配され、屋敷地の北端には御成門が設けられています。

そのほか敷地内には、未指定文化財の味噌部屋、茶室や人力車庫などがあります。



御成門

御成門

御成門は、屋敷地の北端に設けられた薬医門形式の門です。江戸時代後期に建築されました。



主屋

主屋

嘉永5年(1852)建築の主屋は、間口が22.8m、奥行きが25mの大きな建物です。平面形は、一部3階建ての取合部を挟んで、西側に土間と台所、北側に20畳の大広間、東側に座敷部が配置されています。



土間のカマド

主屋の土間には、当初あったカマドを再現しました。炊き口が5口一列に並んでいます。



大広間

大広間は、紀州藩からの使者や来客等をもてなす部屋として使われました。



主屋鬼瓦

鬼瓦には「嘉永五年 祢宜村 瓦屋新兵衛」とへら書きがあります。



表門

表門

屋敷正面の表門は、東西が約30mある長屋門形式の門で、江戸時代後期の建築です。中央の門構えは総ケヤキ造りで、表門東側の座敷3室は、大庄屋の役所として使われていました。